ていしゃじょう　停車場（国鉄自動車の）　国鉄自動車の停車場とは，道路運送法上の停留所のうち，運賃起算箇所となるもので，自動車を停車させて旅客・荷物および貨物等の取扱いをするために常用される場所をいう。

停車場の設置および廃止については，すべて地方自動車事務所長から所管陸運局長へ申請し，承認を受けなければならない。また承認後はその旨を官報および鉄道公報に掲載して，対外的に公示することが必要である。

国鉄自動車の停留所を，業務取扱範囲別に分類すると次のとおりである。(昭和39・12現在)

一般運輸営業を取り扱う駅	223
旅客のみを取り扱う駅	7,017
貨物のみを取り扱う駅	55
計	7,295

(嶋田健一)

ていしゃじょうせっきんひょうしき　停車場接近標識　東海道新幹線で代用保安方式実施時において，停車場へ接近したことを運転士に知らせるもので，地上信号機の見通し距離の不足を補う目的で設けられる。順逆線ともに＊停止限界標識の外方約1km付近に100m間隔に3個，レールレベル上3,400mmの位置の線路左側に設けるのを原則としている。形状および寸法は，縦600mm，幅450mmの橙黄色の反射剤のく(矩)形板に，幅120mmの黒色の線が2本等間隔に入っている。

(鹿野　章)

ディスクブレーキそうち　ディスクブレーキ装置　ディスクブレーキ装置は，車輪の踏面を摩擦面とした従来の制輪子ブレーキ装置と異なり，車輪とは別の摩擦円板すなわちブレーキディスクを車輪または車軸に固定し，これにブレーキライニングを押しつけて必要なブレーキ力を得る装置である。この装置の特長として

(1) ライニングの摩擦係数は速度によらず，ほぼ一定(0.3～0.35くらい)であるため，ブレーキ力が全速度範囲で変わらない。さらに粘着係数の理論的な極限値に近づきうるため，減速率が高くとれる。(2) ライニングの摩耗が少ないので保守が容易である。(3) 摩耗の少ないことはブレーキ倍率を大きくとれ，したがってブレーキシリンダは小さくなり，基礎ブレーキ装置が簡単になる。(4) 車輪に熱を与えない。などの利点がある。ライニングの材質としてはレジンが使われ，ディスクの材質としては遊離炭素を含む鋳鉄が耐摩耗性の点ですぐれており，強度の面からパーライト鋳鉄が普通用いられる。　(岩沙克次)

でいりけんさ　出入検査　貨車が会社線（地方鉄道・専用鉄道・軌道およびこれに準ずるものをいう。）から日本国有鉄道の鉄道線内に入線する際に，要部の状態について行なう検査である。昭和36・9に客貨車検査規程の全面改正が行なわれたが，改正前には滞留検査という名称で貨車の自駅到着車・社線出入車および相当時間滞留する中継車などについて検査を行なっていたが，改正の際，滞留検査は廃止され，その一部である社線出入車について行なう検査を新しく設け，出入検査と名づけた。名称が出入検査であって，国鉄線に出てくるときと社線に入るときと両方検査するように考えられるが，重複検査を避けるため，あくまでも会社線から国鉄線に入線する際に行なうものである。

(清水次郎)

データ・プロセシング・システム　(英) data processing system　データ処理をする機構であるが，処理を効率よく行なうため，事務機械を併用する場合に用いられるのが普通である。この場合，目的によって費用と効果を考慮することにより，さまざまなシステムが選ばれ，また開発されてきた。現時点においては，用いる機器の面からみると，パンチカード式計算機を主体とするデータ処理システム(P.C.S.)から，＊電子計算機を主体とするデータ処理システム (Electronic Data Processing System 略称 E.D.P.S.)へと発展してきているといえる。

個々のデータ処理またはデータ処理機器に対して，それらを地域的，時間的に関連づけて効果的な処理システムにする見地から，＊IDP 方式 (Integrated Data Processing) や，データ集中処理方式の考えが生まれてきた。さらに情報またはデータ処理の時点や態勢に注目するとき，情報またはデータが発生の都度，直ちに処理される場合と，まとめて後刻，処理担当側のスケジュールによって一括処理される場合とがあり，前者を**リアルタイム処理** (real time process)，後者を**バッチ処理** (batch process) と称している。

前者の例は，座席予約に現われるシステムであり，後者は今までのおおかたの事務計算において行なわれていたシステムである。しかし現時点においては，事務データ処理についても，リアルタイム的な処理を併用することによって，全体の効率を高めるという考え方が生まれてきている。⟶パンチカード式計算組織。　(大芝　猛)

デコンタミネーター　(英) decontaminater　給油機の一部分で水・じんあいの除去装置であるが，給油機には欠くことのできない要部であることから，給油機全体をデコンタミネーターと称している。給油機はディーゼル車両の開発増備に伴い，年々急増している。

図-1　配管系統図

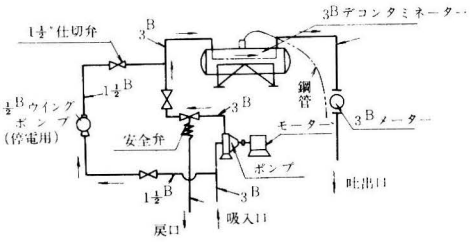
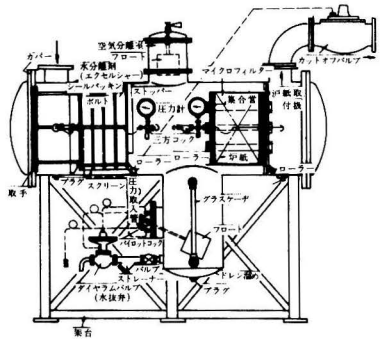


図-2　デコンタミネーター



機構はモーター，ポンプ，デコンタミネーター，流量計が図-1に示すように接続されている。このうちデコンタミネーターの構造および作用を説明すると，図-2に示すとおり要部は水分離部と空気分離部，ドレンたまり，水自動排出装置およびろ(濾)過部(ろ紙)その他からなっている。配管中より送られてきた油は，↓印位置からタンク内に入り，水分離室内に入って水